

第 22 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	第 40 回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 松山 実行委員会
開催日時	2021 年 2 月 7 日（日）13：30～15：30（無観客 CATV 収録放送に変更）
テーマ	「コロナ禍で見たもの」高齢社会のこれから 「第 40 回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 松山」開催にあたって
形式	シンポジウム
講師等	シンポジスト： 樋口恵子さん（NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事長） 河上和子さん（居宅介護支援事業所・ケア・ステーション樽味管理者） 鷺野陽子さん（アビリティセンター、介護雇用プログラム推進事業運営責任者） 窪田里美さん（介護老人福祉施設 味酒野ていれぎ荘施設長） 進行係： 立川百恵さん（第 40 回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 松山 実行委員代表）

〈内容〉

介護施設責任者 2 名、介護人材育成者 1 名の地元シンポジストの方に、コロナ禍における現場での経験や考えられたことを語っていただき、続いて樋口恵子さんに、超高齢社会にどう取り組んでいこうとされるのか、総まとめの立場で東京からリモートでお話いただくシンポジウムとしました。



コロナ禍でのリモート参加、その上 CATV 収録放送という初体験で不安な面もありましたが、リハーサルの効果やリモート体験もありで思ったよりスムーズに収録できました。

地元シンポジストからは、現場の切迫した内容が飛び出しました。コロナ対策のため入居者の方が直接ご家族と会えないという大変な状況となり、様々な工夫やご苦労があったようです。

この一年を通して今後の取り組みをどう考えるかについて、次のようなお話がありました。

サ高住の管理者である河上さんは、高齢者本人がどう過ごしたいか自分の思いの大切さと、平均寿命と健康寿命に約 10 歳もの差がある中、住み慣れた地域で暮らすには地域連携、人間関係の必要性を述べられました。

介護老人福祉施設長の窪田さんは、介護人材が益々不足する中、国の進める外国人材、ICT 化のみでは立ち行かないと、ご自身がこれまでもやってこられた地域連携、さらに介護施設も含めた連携の重要性を述べられました。

愛媛県の事業である介護人材育成に携わる鷺野さんは、コロナ禍で応募者が増えたが、母子

家庭などが多く、応募者の生活面のサポートが必要であること、また高齢社会において、男性たちの仲間入りの必要性を述べられました。

樋口さんからは、新たな取り組みとして高齢者 ICT に関するアンケートをとりまとめていることが語られました。続いてこれから先 30 年の日本の人口構造が見えてきたが、人生 100 年時代をヨタヘロになっても役に立っていると実感できる地域社会にしたい。そのためには住民の 30% になる高齢者の声、女性の声が届く社会にしなければならない。そして、発表の場となる松山市で開催の高齢社会をよくする女性の会全国大会を「善きものを 生み出さんとや 老い集う」と表わされました。最初に長寿を謳歌する世代としては、社会に何かできる世代でありたいと締められました。

〈まとめ〉

今回、人生 100 年時代をどう生きればよいのかをテーマに、全国大会を開くに当たり実行委員会として学習を重ねてきました。その一環として、今回のシンポジウムでは地域の介護現場から、コロナ禍の中で経験されていることを伺いました。それぞれ現場の声は切実なものがあり、重く受け止める機会となりました。この時代を共に生きる市民として何ができるか、さらに学習・議論を重ね意義ある大会を開催し、地域の皆さんと共有したいと考えています。